

海外研修報告書

阿部 衛（イタリア地中海）

この度「卓越した大学院拠点形成支援補助金経費」を受け、9月10日～28日に渡り、イタリアで調査を行った。前半はカンパニア地方の遺跡群を、後半はローマの遺跡群を調査した。

カンパニア地方では、ポンペイ・エルコラーノといった火山の噴火によって埋没した都市や、ナポリ考古学博物館、カプリ島、帝国有数の規模を誇る円形闘技場のあるポッツォーリを調査した他、東京大学が中心となって発掘を行っているソムマ・ヴェスヴィアーナ遺跡の発掘現場を見学し、わずかながら参加させていただいた。またローマではコロッセオやフォロ・ロマーノ、トラヤヌス帝のフォロおよび市場、ボルゲーゼ美術館、オステリアを調査した。

本調査では、都市における公共施設の遺構を多角的に調査するという目的があった。一つは俯瞰的に遺跡全体の中での公共施設の役割を、もう一つは公共施設の遺構そのものに焦点を当て、構造物としてどのような工夫がなされていたのか、を調査することであった。そうした意味で、ポンペイ・エルコラーノ・オステリアといった大規模な都市遺跡を自らの足で歩いたことは、公共施設の位置関係が持つ意味、そこで生活していた人の流れを考察する上で大変意義深いものであった。また、円形闘技場や、劇場、公衆浴場といった空間の内部構造を見ることで、大衆を楽しませるためにどのような工夫がなされていたのかを窺い知ることができた。とりわけ、ポッツォーリの円形闘技場では、遺構の地下に入ることができた。観客のみならず、そこで働いていた人々の通路や、様々な用途の部屋が見られたことも大きな収穫であった。

今回の調査は概ね計画通りに進み、非常に実りあるものとなった。今後の研究の糧としたい。

最後に、こうした貴重な機会を与えていただいた「卓越した大学院拠点形成支援補助金」関係者の皆様に心より謝意を表したい。



円形闘技場地下（ポッツォーリ）



浴場脱衣所（エルコラーノ）



エルコラーノ遺跡